

飼い主のための ペット同行避難マニュアル



1	目的.....	3
2	用語の解説.....	4
3	飼い主の心構えと準備.....	5
4	ペット用避難用品と備蓄品の用意.....	7
6	避難所生活におけるペットの所在.....	8
7	避難所以外でのペット飼養.....	9



1 目的

災害時には何よりも人命が優先されますが、近年ペットは家族の一員として、人生のパートナーとして、生活の支えとする意識が一般的になりつつあり、災害時に飼い主とペットが同行避難することは、飼い主の心のケアからも重要であると考えられます。また、これまでの大規模災害では飼い主とペットが離ればなれになってしまい、野生化した犬が人に危害を加えてしまうなど様々な問題が報告されており、そのような事態を未然に防ぐためにもペットの同行避難を進める事が必要になっています。

一方で災害時は飼い主による「自助」が基本です。自助とは自分の命は自分で守ることで防災の基本です。ペットの飼い主はペットの健康と安全、生命を守る責務と共に避難所ではペットを飼っていない方への配慮も必要です。本マニュアルは災害時のペット同行避難についてあらゆる方に理解していただき、安心して避難生活ができるように準備する事を目的とします。

行政は被災者であるペットの飼い主の支援(=避難所でペットを受け入れる)を行います。ペットは飼い主自身が守る責務があります。



2 用語の解説

ペット

本ガイドブックに定める「ペット」は犬や猫などの小型の哺乳類、鳥類を対象とします。人に危害を加える恐れのある大型動物や危険動物、ワニガメやニシキヘビ等の特定生物や特定外来生物に指定された動物や設備環境(水槽での飼育等)により飼育が困難な動物は含みません。

※これらを飼育する飼い主は災害時の対応を事前に検討してください。

同行避難

「災害発生時に飼い主が飼育しているペットを同行し避難所まで避難すること」を指します。

ペットを被災者と同室にて飼養管理する意味ではありません。

ただし、盲導犬、聴導犬、介助犬についてはこの限りではありません。



避難所

災害により、居宅を失ったりライフラインが寸断され生活が困難になった方が避難生活を送る体育館等の施設。

3 飼い主の心構えと準備

災害時には、ペットを守るために飼い主が無事であることが重要です。

○普段の暮らしの防災対策

飼い主が無事であるために、住まいの耐震化や家具類の固定等を行い、安全のために備えましょう。

その際ペットが普段いる場所に配慮することでペットの安全にもつながります。

犬を屋外で飼育している場合はブロック塀やガラス窓等、飼育場所の周囲の破損や建物倒壊の恐れがないか確認し、首輪や鎖が外れたり、切れたりして逃げ出す恐れがないか確認しましょう。

○必要なしつけと健康管理

避難所生活に適応できるように日頃から必要なしつけと健康管理を行っておきましょう。避難者への迷惑となる行動を防止すると共にペット自身のストレス軽減にもつながります。

○動物病院、獣医師への相談

日頃から、しつけ方、飼育方法、健康管理等に疑問点、不明点がないようにかかりつけの獣医師に相談をしておきましょう。



POINT

しつけと健康管理の例

犬の場合

- マテ、フセ、オイデ、オスワリ等の基本的なしつけ
- ケージやキャリーバックに入ることを嫌がらないようにしつけておく
- 無駄吠えをしない
- 狂犬病予防接種や各種ワクチン接種を行う
- 寄生虫の駆除、予防
- 不妊・去勢手術を行う
- 決められた場所での排泄
- 人や他の動物を怖がらないようにしつける
- 身体を清潔に保つ



猫の場合

- ケージやキャリーバックに入ることを嫌がらないように慣らしておく
- 人や他の動物を怖がらないように慣らしておく
- 決められた場所での排泄
- 各種ワクチン接種を行う
- 寄生虫の駆除、予防
- 不妊・去勢手術を行う



○ペットが迷子にならないために所有者明示を

外から見えて誰でもすぐわかる迷子札を付けましょう。

なお、犬には犬鑑札、狂犬病予防注射済票の装着が義務付けられています。

また、脱落の恐れのないマイクロチップは万が一首輪が外れてしまった場合でも確実な身分証明となります。

POINT

マイクロチップとは？

マイクロチップは直径2mm、長さ8～12mmの電子標識器具で15桁の番号が記録されています。一度装着すれば首輪や迷子札のように外れる心配が少なく、より確実な身元証明になります。なお、マイクロチップを装着した後は必ず(公社)日本獣医師会などに登録手続きを行いましょう。



○避難所と避難ルートの確認

飼い主は市ホームページや取手市地域防災計画で避難所の場所やルートを事前に確認しておきましょう。

また、日頃から近隣住民と良好な関係が築けるようコミュニケーションや飼育マナーに気を配り、発災時に「自宅にいない」、「帰れない」場合にも助け合うことができるように防災について話し合う事も重要です。



4 ペット用避難用品と備蓄品

避難先においてペットの飼育に必要な物は飼い主が用意する必要があります。飼育に必要な物は少なくとも5日分(できれば7日以上)は用意しておきましょう。

POINT

同行避難に必要な物(例)

ケージ(故障や不具合がない事を確認しておきましょう)

ペットフード、飲用水(7日分以上が望ましい)

療法食、常用薬

予備の首輪、リード

ペット用食器、フード保存用の密閉容器

排泄物の処理用具(ペットシート等)

かかりつけ動物病院、ワクチン接種状況などの情報メモ

アレルギーの有無(食べ物を含む)

タオル、ガムテープ(ケージ補修など)、洗濯ネット(猫の保護や診察に使用)

カッター マジック ウェットタオル 犬用靴下(ガレキがある場合)

ペットの写真(呼び名や名前入り)



5 災害発生時の対応

災害が発生した場合は、まず自身の安全を図ったうえで、落ち着いてペットの安全を確保します。ペットはパニックになる事が考えられますのでケージに入れるなど逃げだしに注意して下さい。

○同行避難の準備

地震の場合は、余震や家屋の倒壊の恐れを冷静に見極め、避難が必要と判断した場合は、飼い主自身とペット用の避難用具を持ち、避難所へ同行避難してください。

6 避難所生活におけるペットの所在

同行避難したペットが他の避難者の癒やしの存在となるか、不満の対象になってしまうかは飼い主の対応が大きく影響を与える事になります。

なお、避難所ではペットと同室での飼育はできません。

○避難所ペット登録台帳への登録を済ませます。

指示されたペット飼養スペースにケージごと設置します。

飼い主同士で協力し、ペット飼養スペースの維持管理を行います。

・ペット飼養スペースと周辺の清掃、消毒

避難所は地域の公民館や小中学校を利用している場合が多いので、避難所閉鎖後は速やかに通常利用ができるように、清潔に維持しましょう。

※大型犬はケージではなく係留することとなります。

・ペット用トイレの清掃、糞尿の後始末

避難所におけるペット苦情の多くは鳴き声と悪臭です。避難者の理解を得るためにも飼い主同士協力して清潔に保ちましょう。

犬は散歩でストレスを発散することにより、無駄吠えの低減につながります。

・居住スペースにはペットは持ち込めません。

動物アレルギーの方や動物が苦手な方が共同で生活しています。なお、身体障害者補助犬法では補助犬の公共的施設の同伴を認めています。避難者に動物アレルギーの方がいる場合は配慮が必要です。

・ペット飼養スペースへの飼い主以外の立ち入りは原則禁止します。

ペットのストレスによる事故防止のために立ち入りは禁止です。

7 避難所以外でのペット飼養

避難とは難を避ける行動です。避難所に行くことだけが避難ではありません。

○自宅管理での飼養

家屋の安全が確保されており、危険がない場合には自宅にて飼養し、自宅にとどまりペットと共に在宅避難することが可能です。

ただし、危険な状態が継続している場合、家屋の安全が確認できない場合は、必ず避難所に同行避難してください。

○車中泊

一時的な避難の場合には自家用車での避難も考えられますが、飼い主の健康(エコミークラス症候群、熱中症等)とペットの健康(熱中症等)に十分に気をつける必要があります。

また、飼い主が車を離れる場合にはペットを安全な飼育場所に移動させましょう。

○ペットホテル、友人、知人宅での飼養

民間のペットホテル、遠方の友人・知人等預かってもらうことも選択肢の一つです。日頃から複数の避難先を確保するようにしておきましょう。



取手市動物愛護協議会

